初生兒子宮出血ノ二例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38167

91) Fleiner, Krankheiten der Verdauungsorgane. 1896. S. 184.
20) Boas, Diagn. und Ther. der Magenkrankheiten. 1903—1911.
21) P. Cohnheim, Die Kranknkleiten des Verdauungskanals. 1905—1908, Arch. f. Verd. Bd. XVI, H. 6, 1910.
22) Elsner, Lehrbuch der Magenkrankheiten. 1909, S. 146 und 147.
23) Sahli, Lehrbuch der klinischen Untersuchungsmethoden. 5. Aufl. 1909, S. 527.
24) Rodari, Lehrbuch der Magen- und Darmkrankheiten. 1910, S. 43.
25) Lefmann, Die Functionsprüfung des Magens nach Probekost. 1911, S. 26.
26) Rütimeyeer. Arch. f. Verd. Bd. XVIII, Heft. 5, 624.
27) 長與稱吉博士, 消化器病學會雜誌 第四卷二號.
28) 深見貞二氏, 同 第八卷二號.
29) Pawlow und W. Parasitschuk, Hoppe-Seylers Ztschr. f. phys. Chemie, Bd. 42, 1904, S. 422.
30) Rütimeyer, Arch. f. Verd. Bd. XVIII, Heft 5. S. 582.

●初生兒子宮出血ノ二例

丹後國宮津病院婦人科
太田垣道夫（學士卒業）

余ハ近時初生兒子宮出血ト思ハル、二例ヲ經驗セルヲ以テ之レヲ左ニ報告シ併セテ、卿カ余ノ卑見ヲ述ベントス

第一例　大〇ツ〇。年齡四十歲十ケ月、四回ノ經產ニシテ前回ニ於テ臀位分娩ヲナシ醫師及產婆ノ遲刻ノ爲メニ死產セリ、ヨリテ今回ハ入院分娩ヲナサントテ大正二年五月三十日來院入院ス、認ムベキ已往症ナク遺傳的關係又不明ナリ、

現症　体格中等、榮養可良ナル分娩豫定期ニチクル、ヿ七日ノ經妊婦ニシテ骨盤端位ナリ、入院後三日ニシテ分娩經過良好ニシテ規定術式ニヨリテ第一臀位ヲ以テ輕度ノ窒息ヲ呈ス、人工呼吸法ニヨリテ回復ス產蓐經過又良好ニシテ十日ニシテ退院ス、

產兒ノ經過　体重三千百瓦ノ成熟セル女兒ニシテ身長四十九仙迷、何等ノ異狀ヲ認メズ。然ルニ突然二日目ヨリ三十九度ノ熱發アリ同日ヨリ小許ノ陰部出血ヲ見ル因リテ外陰部ヲ檢スルニ外傷等ナク腟內ヨリ粘液ヲ混ゼル僅カニ暗色ヲ呈セル出血ヲ見ル。然ルニ口腔ヲ檢スルニ「アフタ」性口內炎ヲ見ル故ニ其所置ヲ耳鼻科ニ托シ四日ニシテ熱ナク「アフタ」又治ス、出血ハ何等ノ所置モナサズ放置セルニ二日ニシテ止ム。產後十日ニシテ退院ス爾來其經過ヲ見又書面ニヨリテ見ルモ何等ノ出血モナク又其他ノ部分ニモ出血モナク又各月定期性ノ陰部出血ナク發育又可良ナリト。

第二例　水〇ナ〇。生後三日ノ女兒。

母及父ハ遺傳的疾病ナシ、母ハ二十三歲ノ初產婦ニシテ十四歲六ケ月ニシテ月經初潮ス持續五日ニシテ通常ナリ認ムベキ疾病ナシ分娩豫定期ニ遲ルヿ二日乃チ大正二年七月十四日第一後頭位ニテ自然分娩ヲナス經過良好ナリ、兒又異狀ナシ、然ルニ生後二日目ヨリ陰部ヨリ小許ノ出血ヲ見ル爲

メ診ヲ乞フト、發育可良豐滿セル初生兒ニシテ發熱ナク何等認ムベキモノナシ外陰部ヲ見ルニ外傷其他炎症症狀ナシ腟内ヨリ粘液ヲ混ゼル新鮮ナル小量ノ出血ヲ見ル腹腔ニ腫瘤等ヲフレズ、出血ハ三日間ニシテ止ム爾後可良ニシテ出血ナク各月定期性出血ナシ。

手元ニ文献ノ徵スルモノナク詳細ナルヿヲ調査スルコト能ハザルハ遺憾トスル所ナリ之レヲ成書ニ見ルニ初生兒子宮出血（Metororrhagia neonatorum）トシテ記載セラル乃チシンコフスキー（Shinkowsky）ハ一万ノ女兒中三十五例ヲ報告セリ又シエレー（Schele）ハ六例ヲ報告セルヲ見ル本邦ニ於テハ余ノ記憶スル所ニテハ京都大學婦人科ヨリ迎學士其二例ヲ早期月經ト共ニ報告シ其差異ノ指示セラレタルヲ見ル（第三回日本醫學會總會記事）ノミトス、成書ノ記載ニヨリテ見ルニ初生兒子宮出血トハ生後一週以内何等ノ原因ナクシテ一時性ノ出血ヲ來シ一日若シクハ數日間持續シ自然ニ止血スルモノナリト

然レドモカク初生兒子宮出血ト他出血ト區別シテ記載サレタルハ最近ニ屬シ多ハ早期月經トシテ報告セラレタルヿ多シフリツチユ（Fritsch）ルンゲ氏（Max Lunge）等尚以前ニ於テハ早期月經トシテ記載セリ。又其他一時性出血トシテ尚他ノ原因ノ爲メニモ來ル例ヘバ幼女ノ子宮内膜炎、外傷、「ゼプシス」ニヨルヿアリ又急性熱性傳染病ニヨリテ又腟炎其他出血性素質（血友病等）ニヨリテ來ルモ物ハ最モ區別シ難キモノニ屬ス以下少シク之等ノ疾病ニ關シ記述スル所アルベシ

早期月經　月經ノ初潮ハ氣候風土人情人種習慣ニヨリテ年齡ニ差アリ、吾人ノ已ニ知レル如ク印度地方ニ於テハ已ニ七、八歲ニシテ來潮シエスキモ―婦人ハ二十歲以上ニ達シ且夏期ノミニ來潮スト稱セラル、溫帶地方ニ於テハ十三歲―十六歲トナシ我國ニ於テハ統計家ニヨリテ差アリト雖モ通常滿十四歲七ケ月ノ平均トセラル本邦婦人ニシテ十歲以下ニ月經ノ來潮スルハ希有ニシテ京都大學婦人科ニ於ケル統計ヲ見ルニ二千〇八十九人中月經初潮十一年代五人、十歲十一ケ月一人ニシテ最モ希有ナルハ滿一年ニ來潮シ十歲十三ケ月ニテ分娩セル一例アリ是者ハ迎學士ノ報告セラレタルモノナリ（第三回日本醫學會總會）。東京大學婦人科ヨリ大塚學士ノ報告ヲ見ルニ十一年代ノモノ三十五人ニ達スレドモ十年代ニ於テハ十歲四ケ月ノモノ一人ナリ、是ニヨリテ見ルモ生後一年内ニ月經ノ來潮スルハ最モ希有ニ屬ス、

苟モ月經ト稱スルヰハ週期的子宮出血ナラザル可ラズ一時的ノ出血ハ月經ト稱スルヿ不可能ナリ且又早熟ヲ供ハザル可ラズ、ステルツネル（Prof. Dr. Stseltzner）ハ曰ク早期月經ハ早熟ノ一徵候ニシテ Pubertas praecox ト云フテ可ナリト。然ルニ確カニ早熟ニシテ未ダ月經ノ來潮セザルモノアリプロツス（Ploss）ハ五歲ニシテ已ニ陰毛ヲ生ジ未ダ月經ノ表ハレザル一例ヲ彼ノ著書 Das Weib ニ寫眞ヲ揭ゲ居レリ又クスマウエル（Kusmauel）ハ五歲ニシテ已ニ乳房ノ發育大人ノ如クニシテ且腋毛ノ生ゼルニ尚月經ノ來潮セザルヲ見タリト、又フリツチユ其他二三ノ學者ハ生後五日以内ニ起レル陰部出血ヲ早期月經トシテ誤報セルヲ見ル。

又月經ハ必ズ挑卵機能ヲ伴フハ今日學者ノ非定セザル所ナリ早期月經又然ラザル可ラズ乃チ機會アラバ妊孕ヲ營ム之レ早期妊娠（Graviditas praecox）ナリ之ヨリシテ又早期挑卵（Ovulatio praecox）ナル現象ヲ証認シ得。

ゲブハルド（Gebhardt）ハ熱心ニ早期月經ノ例ヲ集メタリシガ滿一歲ニシテ來潮セル五例ヲ發見セリトシカルニ滿十歲以內ニ妊孕セル例ハ又希有ニシテ迎學士ノ拾集セラレタルヲ見レバ次ノ如シ

	月經ノ初潮	分娩年齡
モントゴメリー氏	一歲	十歲
ド、ガウトンボン氏	九歲	九歲
ヴエハーレル氏	二歲	九歲
モリトール氏	四歲	九歲
カルウス氏	二歲	十歲
ボット氏	一歲	八歲十ケ月
迎學士（京大）	一歲	十歲十一ケ月

早期月經ノ原因トシテハ未ダ定說アルナシ然レドモ卵巢ノ異常發育ニ供フ內分泌作用ニヨルヤ明カナリ今日迄デノ報告ニ於テハ卵巢腫瘍ヲ以テ最モ多シトス、ルーデル（Rudel）ハ六人ノ早期月經患者中剖檢ニヨリテ其五例ハ卵巢腫瘍ニシテ靈腫、肉腫及結核等ナリシト又ツイリアム（Royer. William）ハ卵巢腫瘍ナリシ十一例ヲ報告シ又副腎腫瘍ノ二例ヲ報告セルヲ見ルホ、マイエル（Hoffmeier）ハ五歲ノ早熟女兒ニ卵巢腫瘍ヲ發見シ手術ニヨリテ除去後月經ハヤミ手術ノ際ニ剔除セル陰毛ハ再ビ發生セザリシト、キユストネル（Küstner）ハ二才ノ少女ノ卵巢肉腫ヲ手術セル後ハ出血ノ停止セルヲ實見シ且七ケ月ノ胎兒ニ已ニ卵巢肉腫ヲ實驗セリト、斯ノ如キハ幸ニ完全ニ分娩セラル、ヰハ初生兒ニ於テ子宮出血ヲ來シ得ベキハ可能ナル事ナリ。

佝僂病モ又屢々早期月經ヲ伴フヲ見ル今日ノ學說ニ於テハ本病モ又卵巢ノ異常發育ヲ供フモノナリ。

其他早期月經ノ原因トシテ記述セラレタルモノハ腦水腫、然リ又遺傳的關係ヲ唱フル人アリ、然レドモ少年期ニ於ケル原因トシテハ多量ノ香料、咖琲茶等ノ過量攝取、又多量ノ肉類又アルコール飲料ノ攝取ニ因スルモノ及手淫等ニ期セラル。

クスマウエル、ホ、マイエル等ハ多クノ例ニ於テ卵巢ノ鏡檢ニヨリテ克ク發育セル卵濾胞ヲ發見セルヲ以テ本原因ヲ卵巢ニ於ケル原發性增埴（Primaere Hyperplasie）ニ歸セリ、一八〇二年クレンメ（Klemme）氏ハ「ホーホリン」說ヲ唱ヘ早期ニ兒体中ニ發生セル「ホ、ホリン」樣物質ハ卵巢ヲシテ急速ニ發育セシメ早期月經ヲ來スト、一九〇八年ナツケ（Nakke）氏ハ此說ニ贊成シ「ホーホリン」ノ反對藥タル「チレライジン」ヲ早期月經ニ推奬セリ又ケンドレ（Kendle）及ランビノン（Lammbinonn）ハ五歲及九歲ノ早期月經患者ニ「チレホイジン」ヲ應用シ月經ハ閉止シ一般狀態可良トナリ乳房モ縮少シ陰毛モ脫落セル例ヲ見タリト、斯ノ如ク尙原因的關係尙不明ナリト雖モ卵巢ヲ增埴セシメ又卵巢ヨリスル內分泌ノ過多ニヨルヿハ明カナル事實ナリ。

其他早期月經ヲ以テ精神病的又神經病的素質ナリト唱フル人アリ。

腟肉腫　本病モ又小女ニ陰部出血ヲ來ス此際ニハ出血、破懷組織及膿ヲ混ズル血性排出物ヲ供フ其好發年齡ハ半年乃至三年半ノ小女ナリトス而シテ速カニ膀胱ヲ侵シ「ポリープ」狀ヲ呈シテ前腟壁ヨリ發生スル「多シ出血ト共ニ特ニ膀胱及腎臟ノ症狀ヲ伴フト、然レドモ又早期ニ於テハ只時々小

許ノ出血ヲ見ルノミ又已ニ七ケ月ノ胎兒ニ卵巣肉腫ノ發見ヲシルニ於テハ初生兒ニ於テモ又其存在ニ注意ヲ要スル丁ナリ。

子宮原發性肉腫ハ少女ニ於テハ今日迄デ僅カニ二例ヲ報告セラレタルノミ多クハ腟ヨリ續發性ニ來ル。原發性子宮癌腫モ又少女ニ發生シ得ルモノナリ又出血ヲ來ス。子宮筋腫モカ、バイロン氏ガ十一年代ノ少女ニ大ナル三千五百瓦ノ筋腫ヲ有シ强度ノ出血アリシヲ全摘出ヲ行ヘルヲ報告セリ以來幼少ナル女兒ニモ又來ル丁明カトナレリ。腸殊ニ大腸ノ急性炎症又腹腔下部ノ炎症ノ爲メ生殖器ニ充血ヲ來シ出血ヲ見ル丁アリ、又腟ノ外傷然リ又輕度ノ出血特ニ惡臭アル腟排出物ハ急性傳染病（痲疹、痘瘡猩、紅熱等）及腟ノ深部創傷ニ來ル、殊ニ「コロフ」性及「ヂフテリー」性炎症ニ因スルモノニシテ腟粘膜ニ義膜ヲ生ジタルモノニ於テ然リカクノ如キハ臨ノ腫張甚シク臨腟ヲ見ル能ハズ熱ハ初期ニ一時性ニ來ル丁多シト。

茲ニ重要ナルハ出血性素質乃チ血友病其他ナリ此疾病ハ初生兒ニ於テハ多クハ臍帶出血トシテ表ハル又初生兒「メレナ」又厲吾人ノ實驗スル所ナリ其希ニ口腔及鼻腔ヨリ出血ヲ來ス、カクノ如キ出血ハ又初生兒ニ於テ臨、子宮ヨリ惹起スベキハ疑フベカラズ、乃チ米人ウエチ氏ハ十八名ノ初生兒出血中二例ノ臨出血ヲ來シテ死亡セルヲ見タリト亦後年ニ至リ新鮮血清ノ注射ニヨリテ止血セル初生兒臨出血ヲ經驗セルヲ報告セリ。其他多クノ臨床家ハ人健康血清、馬血清等ノ注射ニヨリテ治癒セル初生兒「メレナ」症其他ノ出血症ヲ報告セリ、ワイル氏ハ血友症ヲ別チテ二型トス其一ハ偶發的ハ一時的ニシテ他ハ先天的ナリ、偶發的血友症ニアリテハ、血液ハ稀薄ニシテ靜脈管ニ刺針スルトキハ直チニ血液ノ流出ヲ見ル此血液ノ白血球ハ常軌ナレドモ凝固ニ七十五分ノ時間ヲ要ス凝血ハ固形体ヲナシ血清豐富ナリ、先天的血友病ニアリテハ血液ハ粘着性ヲ有シ流出ノ度緩慢ニシテ單核白血球ノ增殖セルヲ見ルベシ凝固ニ要スル時間二乃至九時間ニシテ凝血ハ柔軟ニシテ血清量少シト又曰ク血清療法ハ試驗管內試驗ニ両者トモ血液凝固作用ハ增進スト雖モ生活体內ニ於テハ血清注射後二日ニシテ血液常軌トナレドモ先天性血友病ニ於テハ大ナル効果ナシト、以之見ルニ出血性疾病ニ於テモ輕重種々アリ一時性ニ出血シテ其マヽ止血セルモノアラン又大出血ヲ起シ又度々ノ出血ヲ起スモノモアラン又實際ニ於テ臨床上吾人ノ經驗シ又其報告等多々アラント思ハル、

余初メ初生兒子宮出血ノ第一例ヲ見タルトキハ骨盤端位ナリシヲ以テ身体下部ノ鬱血ニヨリテ其抵抗力少ナキ子宮粘膜ヨリ出血セルモノナラント思惟セシガ成書ヲ見ルニカヽル記載ナク次ニ第二例ヲ見ルニ及ビ其然ラザルヲ知レリ、思フニ此出血ハ出血性素質ニ因スルモノニアラザルカ或ハ分娩ニヨル一時的血液變化ニヨリテ出血性素質ヲ起スニアラザルカ、初生兒子宮出血ナル疾病ハ獨立セルモノニアラズシテ出血性疾病ノ一變型ニアラザルカ。余短學不才ヲ省ミズ記シテ以テ諸學者ノ指教ヲ乞ハントス。

引用書目

1) Runge, Gynaecologie. 4. Auflage.
2) Fritsch, Frauenkrankheiten. 6. Auflage.
3) Ploss, Das Weib. VII. Auflage.
4) Sexuelle Wissenschaften des Weibes. 2. Auflage.
5) Wintel, Handbuch der Gynaecologie. 2. Auflage.

5）第三回大日本醫學會演說集

以下略ス

通信

●印度洋を横ぎる記（續き）

塚本政治

九月五日午後三時彼南出發の筈なりしも本船に積むべき荷物遽に增加せしため出發を延期し午後五時頃拔錨す本船の當港出口に郵船會社のカルカッタ航路に從事し居る土佐丸（六千噸）の碇泊し船尾に日章旗の飜へるを見一種の快感を覺ゆ船員の談には日清戰爭時には本邦にては最大の商船なりしと我船は主として西南に向ひて進行し左舷に蔚蒼たる耶于樹の森林を以て覆はれたるスマトラ島を望む。

九月六日午前は風靜かにして海上平穩正午本船の位置は北緯五度三十三分東經九十六度十五分自神戸三千六百九十六浬至マルセイユ六千三十七浬なり午後三時頃より西風強く船の動搖も稍著しく多少船暈氣味あり晩食に三皿位にて食堂を出て甲板上にて夜遲くまで長椅于の上に眠る。

九月七日風止まず益強く船の動搖も甚だしく起床洗面時に既に船暈を感じ朝食前の茶をも口にする能はず椅于の上に仰臥せしも朝食の鐘鳴耳に達し詮方なく食堂に入れば船客皆顏面蒼白にして無言を持し唯默禮苦笑するのみ予も唯一皿を口にして匆々として甲板上に出づ衆皆相踵へで來り前途の航海思へやらるゝ弱音を吐く心細き事限りなし正午には食堂に出でしも東洋人にては予のみ其も唯云へ理位にして『スープ』一皿を平らげしのみにて食堂を出ず他の連中は『カビン』内に食せり同船者毛頭八名あり（三井の新造船松浦丸「六千噸」をロンドンより荷載初航海の途香港へ入港の際暗礁に乘り上げ沈沒せしめ平然たる厚顏無耻の連中）平然として食堂内に談笑の下に食を喫するを見癪にさわるゝ一方ならず予は如何に船暈に苦しむも毎食時必ず食堂に出づ可きを心に期せり此痩我慢何時迄續くや晩食にも食堂に出づ二皿を平らげ直に『カビン』内に入り他の同船室者と共に給仕に『ボーダゼスケット』を命じ其を口にし兼て準備の『ウエロナール』を頓服して寢に就く。

予は先年在京中房州へ友人と共に遊びし時歸途暴風雨に遇へ船客は勿論船員迄船暈に惱まされしときに予も苦しさの餘り種々体位を研究せし結果右側臥にて時々深呼吸をせば惡氣は著しく輕快し眩暈も多少緩解せるを以て本日も予自ら且他の同病者にも應用せしに稍効果あるを經驗す。

九月八日六時起床波も多少靜かとなり元氣大に快復し朝食前には著しき不快なく三皿を平らげ甲板上に出で椅子の上に仰臥のまゝ一昨日來の日誌を認む他の船客も多少馴れし爲か晝食時には食堂に黃色人種も其三分の二姿を顯す晩食には主廚の厚意により邦地產の米飯に豆腐の味噌汁鯛の鹽燒鯛鮪の刺身邦地にても尙珍らしき青き莢豆の鹽煮奈良漬の日本料理にて一昨日來の船暈も消へ失せ數椀を平らげ甲板上に出で各自得意の詩歌謠曲を唸り昨晩に比し雲泥の差あり。

九月九日快晴海上平穩本船の西に向ひて進行するのみにして一昨々日來見渡す限り印度洋の水茫々として際涯なく眼を遮るものとては二三回他の汽船と邂逅するのみなり斯る時は衆皆相集りて船形を評し何國の船なるかを語り合ひ船員に其判決を乞ひ其形を失ふまで見送りぬ靜穩なる海上を眺めは飛魚らしき羽翼を具へたる小魚が船の馳せ來るに驚きて群をなして水